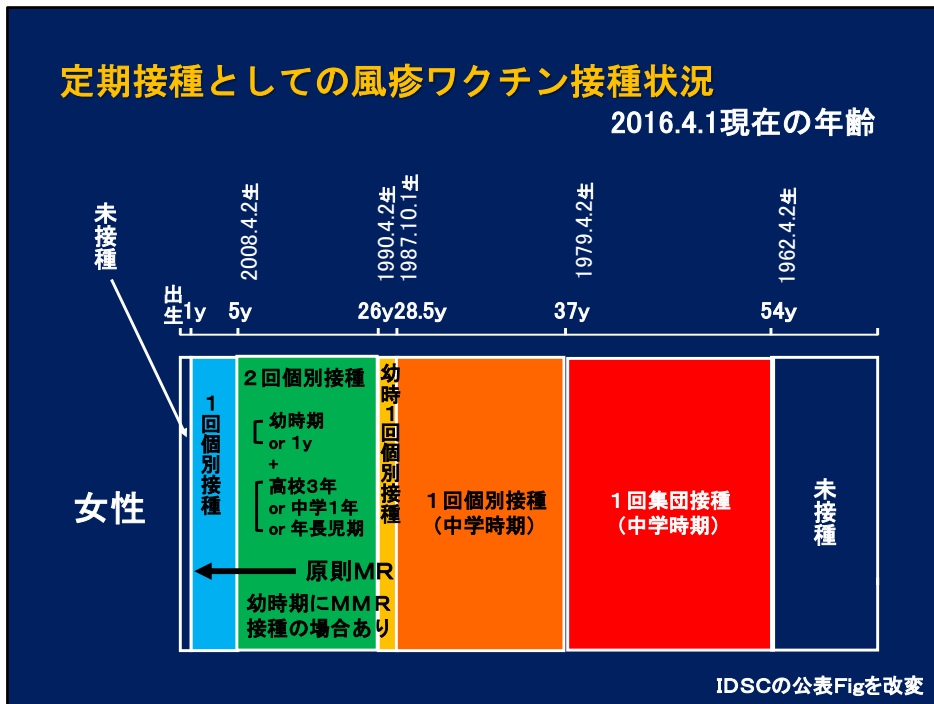


**母子手帳で
母親の風疹抗体価もチェックを！**

わたなべ小児科医院
渡部礼二

小児科学会石川地方会2016.09.11



風疹ワクチンの目的は先天性風疹症候群（CRS）の発生を予防することにあります。その為に接種年齢が中学生の女子、就学前に1回から2回と制度が変遷していた訳であります。昔の〇高である高齢出産当たり前の出産事情ではその接種制度の試行錯誤の真ただただ中にあるのが今の妊婦達です。

風疹ワクチン

第一義の目的はCRS発生予防！

個人防衛：女性は妊娠する前に抗体を高くし感染防御

社会防衛；接種率を上げるにより風疹の流行抑制し、妊婦のウイルス曝露機会を抑制

再度いいます。風疹ワクチンの目的は先天性風疹症候群（CRS）の発生を予防することにあります。

先天性風疹症候群

- ・妊娠初期に風疹の罹患により、胎児に感染し先天性風疹症候群(CRS)の児が出生

- ・CRSの発生頻度(顕性感染)

 - 妊娠1ヶ月: $\geq 50\%$

 - 2ヶ月: 35%

 - 3ヶ月: 18%

 - 4ヶ月: 8%

風疹: 成人で15%程度不顕性感染⇒CRSの可能性

CRSは妊娠が判る前の感染が危険であります。

先天性風疹症候群

先天性心疾患（動脈管開存症、肺動脈狭窄）

白内障

難聴

網膜症

肝脾腫

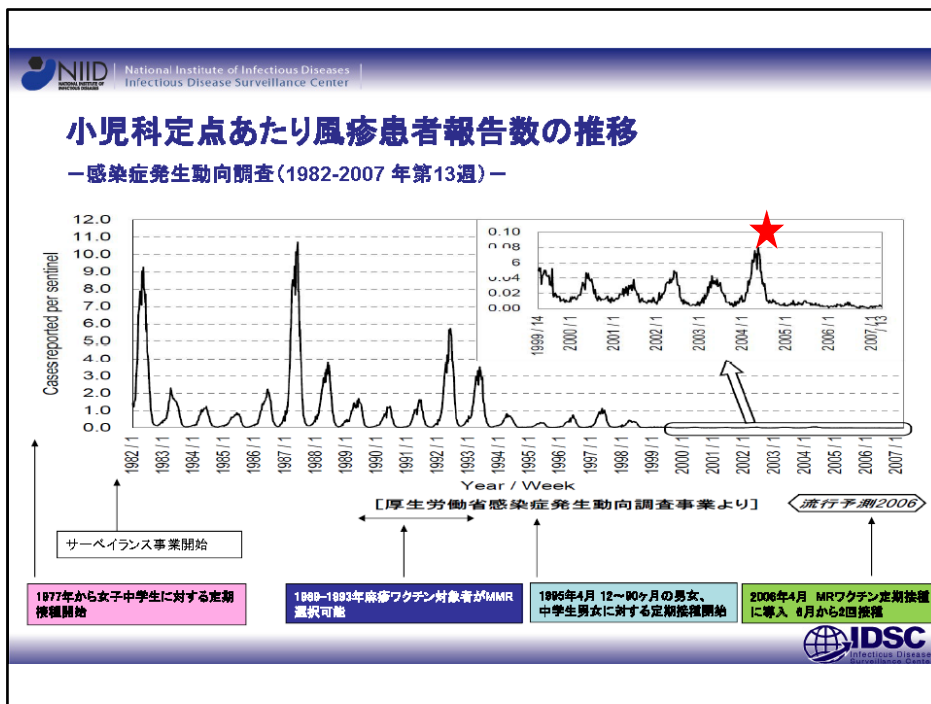
血小板減少

糖尿病

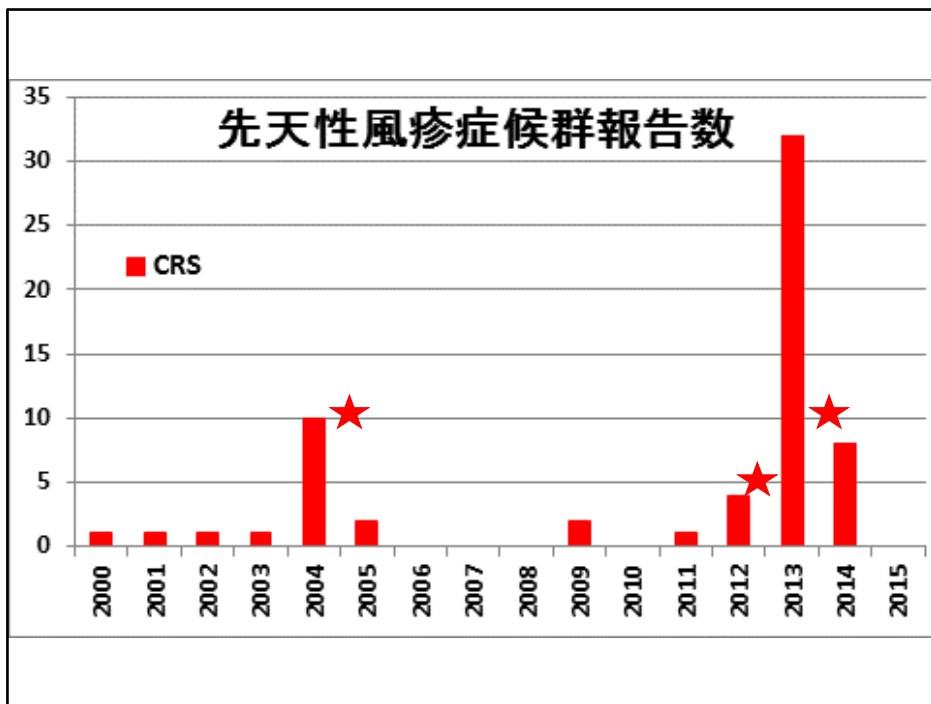
発育遅滞精神発達遅滞

小眼球

CRS の症状です。



風疹は4年毎に流行しており、



2004年に10人のCRSの報告があり、2013年の風疹の大流行の後CRSが45名報告されました。
2004年に

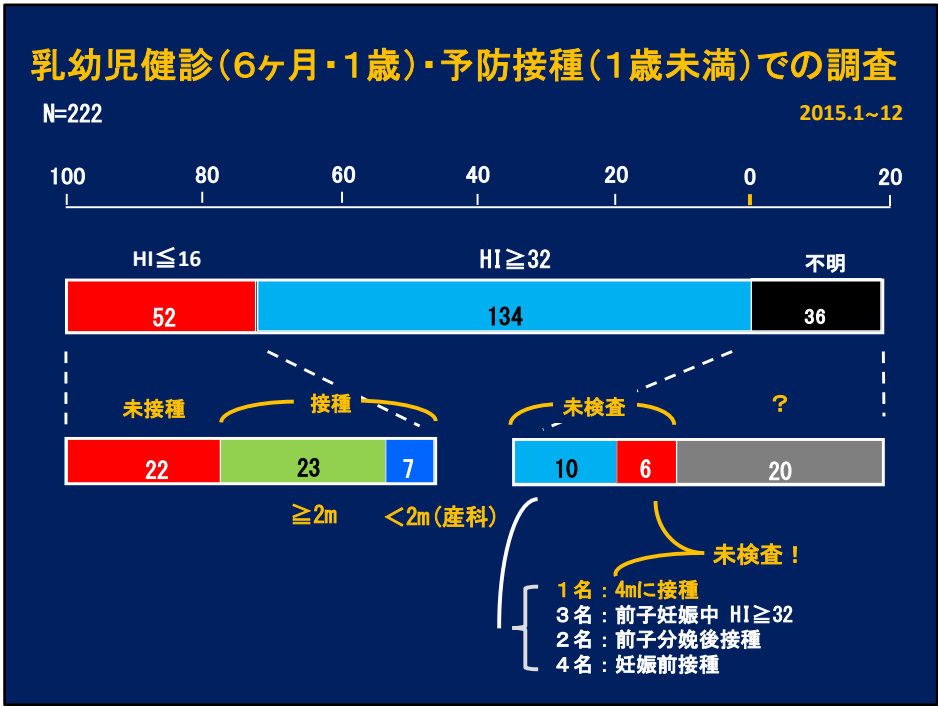
風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言 平成16年8月

1. 妊婦の夫、子供及びその他の同居家族への風疹予防接種の勧奨
2. 定期予防接種勧奨の強化
3. 定期接種対象者以外で風疹予防接種が勧奨される者への接種強化
 - 1) 10代後半から40代の女性、このうちことに妊娠の希望あるいはその可能性の高い女性
 - 2) **産褥早期の女性**

妊娠中の風疹HI抗体が陰性または低抗体価(HI価16以下)の女性は、出産後早期(産褥1週間以内の入院中、もしくは1か月健診時に行うことが推奨される)に接種を受けることが強く勧められる。(その際の接種記録は、母子手帳の児の欄には記録せず、妊娠経過の欄或いは産後早期の経過欄に母親への接種であることを明記する。または、予防接種証明書を発行し、本人の記録として残す。)

厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業分担研究班

厚労省からの緊急提言がその2004年に出され、風疹に対する低抗体価の産褥婦には産後早期あるいは1ヶ月健診でワクチンの接種を勧めています。これはその後何度も出されています。同様の勧告は日本産婦人科学会、日本産婦人科医会からも出されています。そこで、



昨年1年間に予防接種、健診で受診したゼロ歳児の母子手帳等で、妊娠中の風疹抗体価と産後の風疹ワクチンの接種状況を調べました。222名中抗体価が判明した186名を100としてスライドに著してあります。その中で、低抗体価の者は52名(28%)で、その内7名しか産後ワクチンの接種をしていませんでした。抗体検査の補助金が出ているにもかかわらず16名は検査さえもされていませんでした。この23名の殆どは私のクリニックで接種したものです。

これは先程の厚労省からのCRS予防の緊急提言後の、2013-14年の風疹の大流行後でこの状況であります。

産科では

- ・ 低抗体価の産褥婦にガイドライン通り
ワクチン接種・・・一部
- ・ 抗体検査未実施
- ・ 希望者のみ抗体検査
- ・ 2子以降検査未実施
- ・ 低抗体価も接種勧奨せず
- ・ 低抗体価を従来のHI \leq ×8で判断
- ・ 授乳中は接種せず
- ・ ワクチンの在庫(一) ・ ・ などなど色々

産科で勧告通りワクチン接種をしているのは一部
だけであります。母親から聞いた接種してもら
えなかった理由です。

☆風疹ワクチンを受けましょう☆

お母さん自身へのワクチン接種のすすめです。
本日健診～予防接種に来られた児がまだ胎内に
いる時に調べた風疹の抗体価が低く、風疹にか
かる危険があります。

妊娠20週までに風疹にかかると、胎児に感染
し白内障や緑内障などの眼症状、先天性心疾患
、難聴などを引き起こします。先天性風疹症候
群と呼ばれています。

妊娠が判明するのは早くも2ヶ月目（妊娠4～
7週）、通常3ヶ月（8～11週）

なのでそれからの予防では遅く、接種もできま
せん。

次子を妊娠する前にワクチンを接種し、風疹に
かからないように予防して下さい。

なお、接種後2ヶ月は妊娠しない
ように。

わたなべ小児科医院
TEL 076-243-0200



低抗体価の母親を見つけた場合に手渡す私のクリ
ニックの葉です。

平成30年(2018) 6月号 金沢市医師会だより 第 49号

**低風疹抗体価の妊産婦は分娩後早々に風疹の予防接種を！
乳幼児健診時は母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！**

担当理事 渡部 礼

1年前から昨年にかけての風疹の嵐の後、その爪痕として昨年度は2例、本年度は既に5例の先天性風疹症候群(以下CRS)の報告が感染症疫学センターになされています。

CRSを予防するには妊娠する前に風疹に対する抗体を維持して風疹に罹患しないようにすることがあり、抗体価の高い人はワクチン接種で抗体価を上昇させることによる。妊娠が判明すると海外を際して地元の場合、風疹の抗体価を検査される。抗体価が低い(0㎍/ml)妊婦は妊娠20週までに風疹に罹患し胎児にCRSを発生するおそれが多いので、人混みを避けるなど風疹に罹患しないよう注意がなされる。風疹に罹患せず抗体価が高いまま分娩したとしても、次子を妊娠する前(今回の産前早期)にワクチンの接種を勧奨することになっている(厚労省・日本産婦人科医会)。

金沢市内の某小児科で今年1月から4月に6ヶ月、1歳、2歳の乳幼児健診で受診した際、母子手帳で妊娠中の風疹の抗体価を測るものだけ記録し、残ったものにはワクチンの接種の有無を問いた。135名の健診児の内Hで23名は49名、△は15名、不明は71名であった。H△△16の15名の内ワクチンを接種しているのは分娩後に1名だけであった。また1名はワクチン未接種のまま次子を産んでいた。

同様の調査が5月に3ヶ月児の集団健診で市内一つの保健健康センターでパイロットスタディ

石 産 医 誌 第 8 号
平成 26 年 6 月 3 日

会 員 名 位

石川風産婦人科医会
会長 伊 田 俊 博

産後の風疹ワクチン接種動向について (お願ひ)

業医の御 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
今般、金沢市内の某小児科から、産褥期の風疹抗体価が異常に低いという報告を受けました。以下は、6か月・1歳・2歳児健診時の母親の風疹抗体価の統計です。

2歳児健診 総数 30 : △16 3名 (内1名は除籍前に妊娠)、△32 9名、不明 21名
1歳児健診 総数 42 : △16 4名 (内1名は分娩後接種)、△32 13名 (内1名は上の児の時の値)、不明 25名
6か月健診 総数 63 : △16 8名 (総て接種済)、△32 30名、不明 25名

◆135名中判明している15名の低風疹抗体価で産後ワクチンを接種したのは1名だけ。
◆殆どは抗体価が低くワクチンの必要性がある事も知らなかった。
(注：不明はデータの記載がないか、低価が母子手帳に使んでないもの)

このように、産後に風疹抗体価が非常に低いことがわかります。このような状態で北陸に風疹が流行すればCRSは必至です。各医療機関におかれましては、抗体価の低い産褥婦に産後早々の接種勧奨をお願いいたします。

2年前にワクチンを接種されていないことが気付
き、同様な調査をし、今回と同じような結果が得
られたので、石川県産婦人科医会の会報と金沢市
医師会の会報に載せてもらい、中部日本小児科学
会と日本外来小児科学会に演題を出し、訴えて参
りました。しかし、今回の調査の如く改善が見ら
れないので、

要望書

2016年6月19日

石川県産婦人科医会会長 荒木克己殿

石川県小児科医会会長 斉藤建二

風疹低抗体価産褥婦に対する産後ワクチン接種勧奨に関する要望

開発当初より風疹ワクチンは先天性風しん症候群(CRS)の発生予防をエンドポイントとして接種体制の変遷があり、2006年から現在の麻疹風疹混合ワクチンでの2回接種になりました。しかし、2004年には10例、2013から15年にかけて45例(内7名死亡)のCRSが報告されました。

2004年8月に「風疹流行および先天性風疹症候群発生抑制に関する緊急提言」が厚生労働省からなされ、その後日本産婦人科医会、日本産婦人科学会、さらに2013年からの流行で再び厚生労働省から、低風疹抗体価の妊産婦に対する産褥期早期風疹ワクチンの接種も勧奨しております。

妊婦の風疹低抗体価は20%超と報告されており、石川県でも2015年度に小児科医会会員の母子手帳等での外来調査では、25%超(52/186)が接種勧奨のHI \leq 16であり、しかもその内産褥早期に産院で13%(7/52)しかワクチン接種されていないという発表がありました(2014年には年齢対象、調査期間は違ってもHI \leq 16:22%、接種率20%)。

妊娠適齢期の年齢でしかもこの後次子を授かりやすい境遇にある風疹低抗体価の産褥婦であります。また石川県で風疹の流行が少なかったとは言え、全国で大流行しマスコミを騒がせた直後の値であります。

1965年の沖縄の流行でCRS408人を我々は経験しての今回のCRS報告であります。風疹は約5年毎に流行しております。風疹低抗体価の産褥婦には次子のCRS発生予防の為にまた社会免疫の為に、産後早期に少しでも多くの風疹予防接種の接種を小児科医会として切望しているものであり、貴会会員への厚生労働省、日本産婦人科医会、日本産婦人科学会からの勧告・ガイドライン等に沿っての接種勧奨及び実施の周知を強く要望するものである。

今年7月に県小児科医会から県産婦人科医会へ文書で善処を求める要望書を出しました。この会でも県産婦人科学会へ要望して頂ければと思っています。

風疹ワクチン接種時の注意事項と副反応

- ・ あらかじめ約 1 か月間避妊した後接種すること
- ・ 接種後は約 2 か月間避妊すること
- ・ 副反応の説明

発熱、局所反応、発疹、その他のワクチンと同じ
急性血小板減少性紫斑病：1/100万接種
リンパ節腫脹、関節痛：一過性

ワクチン接種時の注意点です。

結語

風疹低抗体価の産褥婦は産後早々に接種を！

母子手帳で母親の風疹抗体価もチェックを！

小児科でも母親への風疹の予防接種を！

結語であります。

産科に任せっきりにならないで、小児科でも母子手帳で母親の風疹抗体価のチェックをしてワクチンも積極的にしていきましょう。